



補習校だより

平成29年度 第23号

平成29年10月28日発行

マイアミ補習校

校長 實藤 哲夫

事務（携帯） 305-505-6493

校長（携帯） 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail miamihoshuko@hotmail.co.jp

宿題はいつやる？

先週、朝から眠そうにしていた子どもがいました。聞けば、前の晩に宿題をしていて寝るのが遅くなったのだそうです。本校の子ども達は“宿題”をするのが（させるのが）大変だ、という話をよく聞きます。確かに、平日は現地校の宿題が出るし、土曜日には補習校の宿題が出るので、両方を消化していくことはとても厳しいということは分かります。でも、“補習校は土曜日にあるのだから前日に宿題を済ませる”というのは非能率的だと思います。

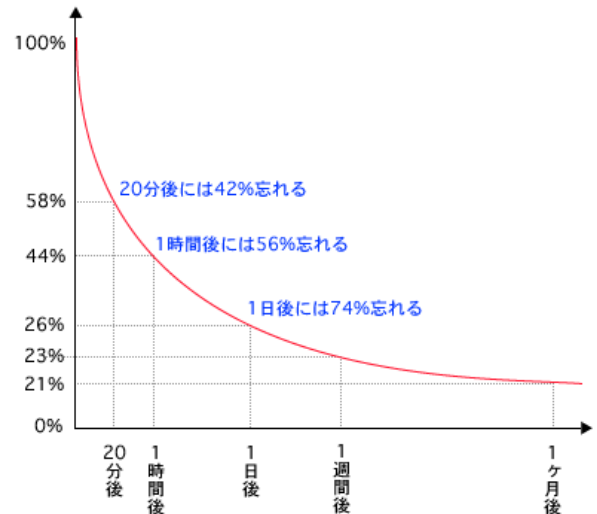
ご承知の方も多いと思いますが、ドイツの心理学者ヘルマン・エビングハウスは、実験により上の図のような「忘却曲線」を表したそうです。人間は覚えてから時間が経つと、最初急激に忘れた後は緩やかに忘れていくのだそうです。でも、時間が経って脳から完全に記憶が無くなったのではないので、下の図のように早い段階で復習をすれば、復習しなかった場合と比べて定着率が良くなるのだそうです。

“宿題”はもちろん“復習”です。自分で学習する（つまり、やらされるのではなく自分で計画を立てて、本当の意味で自学をする）ことができるようになるために、担任としては、その一番良い勉強法「復習」を身に付けさせたいのです。

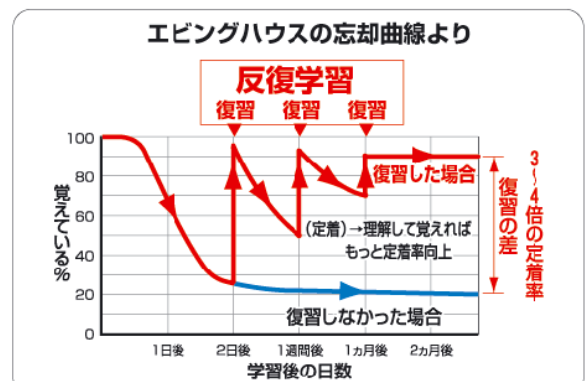
では、“宿題”はいつやるのが良いのか？もちろん、学んだその日のうちにやれば、まだたくさん覚えているので効率的だし、定着しやすいので効果的ということになります。欲を言えば、さらにこれを反復して毎日復習していけば短い時間で、しかも完全に定着するということになります。

補習校が終わってから習い事やスポーツなど、別の用事を予定している子どもも多いようですが、今年提案している「家庭学習（宿題）のしかた」に記載しているように、“できるものは帰ってすぐに、遊ぶ前に終わらせましょう。”を守り、一週間経ってかなり忘れていたため「わからない！」などと言って時間ばかりかかるような宿題の仕方は避けたいものです。

エビングハウスの忘却曲線



人間は覚えてから時間が経つと、最初急激に忘れた後は緩やかに忘れていくのだそうです。



※ヘルマン・エビングハウス(1850~1909・独・心理学者)忘却学説を打ち出す。